



横浜市立太尾小学校

# 学校だより

< 豊かに学び ともに未来をひらく 太尾の子 >

令和2年度8月号  
令和2年7月31日発行

## 「轍」～わだち～

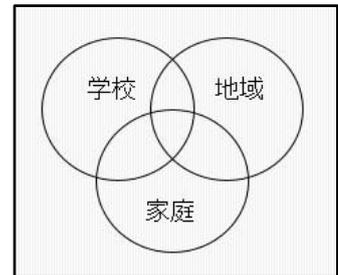
校長 館 雅之



「轍」は通り過ぎた車輪の跡のことをいいます。  
入学式、始業式、臨時休校、分散登校、学校再開、新しい生活様式…ふと思えば4月から今まで常に先が見えず、霧の中を歩くように手探りで前に進んできたように感じます。

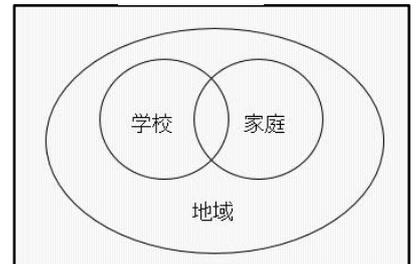
たまには立ち止まって後ろを振り返ることも大切です。先は見えないかもしれないが、振り返ってみればそこにはくっきりとした「轍」が見えてくるものです。そこには昨日まで歩んできた証がしっかり刻まれているはず

です。そのような中、思い出したことがありました。それは20年位前に私がある研修に参加した時のことです。学校、地域、家庭とよく言うが、その関係を記すワークでした。学校、地域、家庭の三者が互いに連携し、相互補完しながらという生半可な知識で私は【図1】を描いたのです。参加者のグループの中でとうとうと三者の役割などを得意げに述べていたかもしれません。私を含め、多くの参加者は形の大小や軽重こそあれ、おおかた私が描いたような図を描きました。



【図1】

最後に講師から講評がありました。その中で、講師は【図2】を示されました。「学校も、家庭も地域という大きな器の中にあるませんか、そう考えませんか」というご指導でした。当時の私にとってはまさに目から鱗の捉え方でした。それ以後、このことを考えながらそれぞれの立場で学校を考えています。



【図2】

さて、以下は私が4月から目にした光景です。

緑化、見守り、芝生の手入れ、水槽の清掃やモーターの修繕にほぼ毎日地域の方が学校に来てくださっています。その方は職員の名前を覚えていらっしゃる、「〇〇先生いるかなあ」と、総称としての「先生」ではなく、「先生」を個としてとらえてくださっています。

朝は必ず地域の方同士が挨拶を交わしています。私が着任してすぐに地域の方が私に挨拶をしてくださいました。「校長先生、ご苦労様です」と声をかけてくださいました。また、登校の様子を見るために私が自転車で地域を回っていたところ、本校の子どもが家のごみを出しているところに出会いました。その行動もすばらしいですが、その姿を見ていた地域の方々が「〇〇くん。もうこんなに大きくなったんだ。もうおうちのお手伝いをしているんだね。」とお話しする声が聞こえてきました。

これらの経験が、過去に私が研修で気付いた、学校、家庭、地域の関係を思い出させてくれたのです。

さて、先の霧はまだしっかり晴れてはいませんが、多少、方向性は見えてきたように思います。これから歩んでいった後には新たな「轍」ができていきます。

子どもたちと教職員とさらにその歩みを確かなものにしていけるように今後も務めてまいりますのでよろしく願いいたします。時には振り返り、「轍」から感じることを大切に…。